

2人の女性首相から見るイギリス政治とジェンダー

名古屋市立大学・奥田伸子

今日の内容

1. サッチャーとメイ：共通点と相違点
2. イギリス政界における女性：歴史経緯
3. 女性首相に見るジェンダー
 - 3-1 サッチャーとフェミニズムの奇妙な関係
 - 3-2 女性首相と女性性（フェミニニティ）

1. サッチャーとメイ：共通点と相違点（表1参照）

サッチャー

1925年誕生

実家は、食料雑貨商（下層中産階級）

公立の学校から オックスフォード大学（化学専攻）

大学卒業後：化学製品を扱う企業の研究員（同時に保守党の候補者）

1951年結婚：相手は裕福な化学製品企業オーナー経営者

1953年 双子誕生

1959年 初当選

1970年 教育・科学担当相

1975年 保守党党首

1979年 首相

1978/79年 不満の冬

労働党内閣への不信任決議 → 議会解散 → 総選挙

メイ

1956年 誕生

父親は、英国国教会の牧師（中産階級）

いくつかの学校を経て 1975年オックスフォード大学入学（地理専攻）

大学卒業後、イングランド銀行などで勤務

1980年 結婚

1986-1994年 ロンドン市議会議員

1997年 初当選：影の教育・雇用相

2002/2003年 保守党幹事長 → 党の近代化を主張：保守党女性議員の増加を目指す活動

2010-2016年 内務大臣（移民・警察、法と秩序などが主要な担当）

2016年 キャメロンの辞任に伴って保守党党首戦 → 党首＝首相に就任
EU 離脱国民投票：国内の混乱, キャメロン首相の辞任

共通点

1. (下層) 中産階級出身, 高学歴
2. 保守党所属
3. 国家の危機的な状況下で首相就任

ガラスの天井かガラスの崖か

「ガラスの天井」論

→ 男性か女性かにかかわらずもっとも適切な人をリーダーに選ぶ
困難な状況下では男性と女性の立ち位置は同等

「ガラスの崖」論

→ 男性が失敗を恐れてしり込み, 女性が指導的立場に就任
勝算の見えない困難な仕事を引き受ける

2. イギリス政界における女性 (表3参考)

初期の女性議員

第2次世界大戦終戦以前に当選した女性議員 → 38名
保守党：17人・労働党：16人・自由党：4人・無所属（大学選挙区）：1名
うち、既婚（寡婦を含む）：23人

1928年以前当選

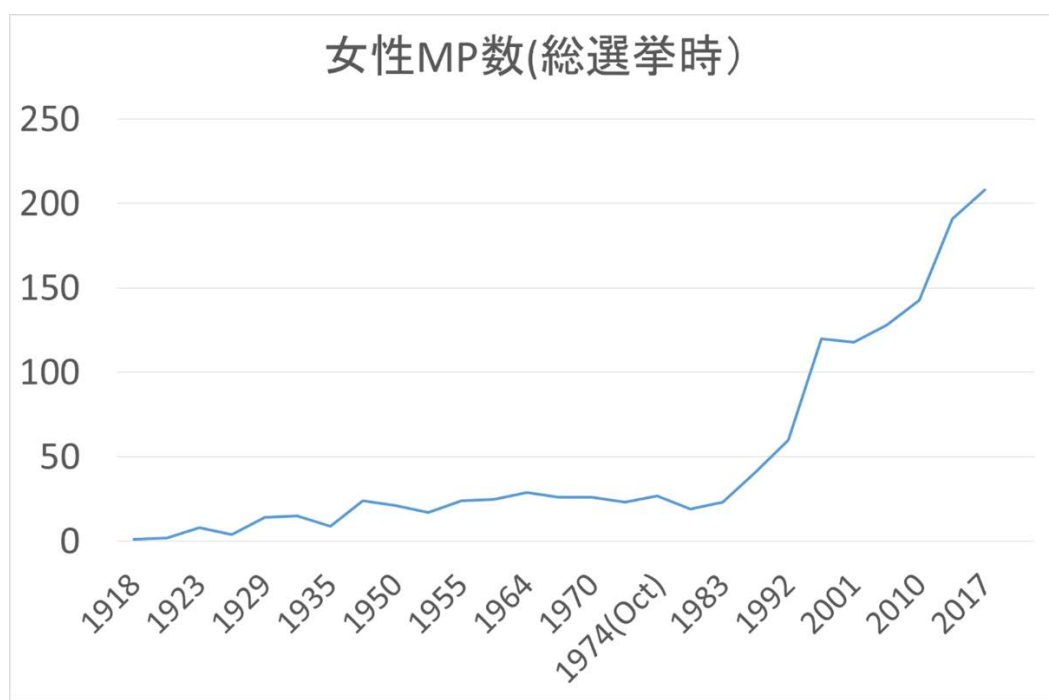
11名当選 → 保守党：4人・労働党：4人・自由党：3人
保守党：4人・自由党：3人 → 全員既婚
労働党 → 全員未婚

初期の保守党・自由党の議員

夫の代替で立候補 → 当選 = 「その夫と結婚したから議員になった」 = 男性代替議員

初期労働党の議員

独身で労働組合活動・労働党活動に専念・高学歴 = 「党と結婚したから議員になった」



(女性議員数・政党別内訳, 出典は表2を参照)

女性議員の活動 (議会での発言)

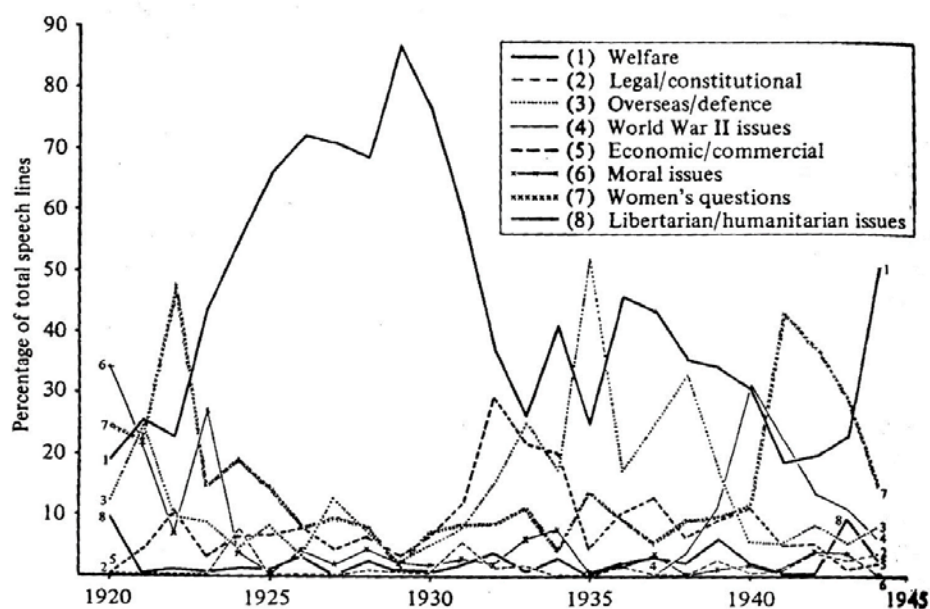


Fig. 4. Total speech lines contributed by all women M.P.s, 1920-44: percentage assigned to eight selected policy areas.

Brian Harrison, 'Women in a Men's House: the Women M.P.s, 1919-1945' in the *Historical Journal*, 29-3, 1986, fig 4.

第2次世界大戦以前の女性議員の発言内容

福祉（教育・公衆衛生・住宅，失業，労働関係を含む）→約50%

外交・防衛問題 → 14%（福祉や難民などの問題を扱うことが多い）

女性関係（同一賃金など） → 13%

経済・商業 → 8%

第2次世界大戦後

1950年代

第2次世界大戦の反動 ⇒ 専業主婦の黄金期

低い既婚女性の労働力率

仕事は男性，家事は女性という社会的規範

→ 子どもを持つ主婦が議員になれるとは思われてない

サッチャーの悩み

子どもの出産後，選挙区探しを行って（サッチャー回想録）

・・・私は（その選挙区の保守党の立候補者として），上位数人のうちに入る。そして（選考段階で）そこそこ上手とみなされるであろうスピーチをする。そして質問が始まる。どこの選挙区でも同じ目的を持った質問だ。家族への責任がある立場で，選挙区のために十分な時間がとれますか。庶民院議員であることは，どれだけ家族から離れてすごさなければならないかご存知でしょうか。もう1，2年立候補を見送ったほうがよいのではないのでしょうか。時にはもっとあけすけに，幼い子どもの母親として義務と議員としての義務の双方を十分に担えると本気で考えているのですか，と。

・・・私が怒りを本気で感じたのは，こうした批判の裏には，議会は結局女の居場所ではないという考えが潜んでいることを感じたからだ。多分，選考委員会の男性にもこうした考えを持っている人がいたろうけれど，こうした考えに近いことをはっきり口に出すのは女性だった。単純な左派的，フェミニスト的「性差別」概念が全く間違っているのはこれが最初ではないが。

私は，こうした経験に傷ついたし，失望もした。こうした批判は，立候補希望者としての私に対するだけでなく，妻であり母親である私に対する批判でもあった。・・・

Margaret Thatcher, *The Path to Power*, Harper Collins, 1995, p.94. (邦訳は奥田)

当選後，保守党の要職を歴任 → 出世への控えめな自己評価

「女性が党首，ましてや首相になるのは何年も先，自分の時代ではないわ。結局そういうことよ。
(It will be years - and not in my time before a woman will lead the party or become prime minister. So that's that)」 1974

変化の兆し → 1970年代は女性の地位の向上

性差別禁止法（1975）、第2波フェミニズムの盛り上がり

1970年代の変化

女性の大学進学率の上昇・女性労働力率の上昇

→ （一部の高学歴女性に限るとしても）男女の格差が縮小

イギリス社会における男女の格差の縮小

→ 政界における女性比率増大・政治が男性の仕事とみなされなくなる

メイの躍進

1997年の女性議員の急増

⇒ 労働党がとった女性ショートリスト（All-women Shortlistにより労働党女性議員数が増加

（表2参照）

多くの政党、および超党派で女性候補者を増加させる試み

保守党 ⇒ 女性ショートリストそのものは拒否

2005年にキャメロンが保守党所属女性議員の増加を呼びかける

“women2win”キャンペーンより多くの保守党女性議員の当選を目指す（創業者の一人がメイ）

女性議員数増加の推進 + 能力主義的な人事 → 女性首相の誕生につながったという自己認識

3. 女性首相に見るジェンダー

サッチャーとフェミニズム

サッチャーは、**I owe nothing to women's lib' (1974)**と語っているが

「フェミニスト」としてのサッチャー

女性は専業主婦であるべきか？

子どもの出産直後に弁護士試験の申し込みをするにあたって

・・・もちろん、母であり主婦であることは非常に重要な仕事である。しかし、私には単にそれが私の仕事のすべてだとは思えなかった。私は常にキャリアを欲しいと思っていた。・・・『家庭は常に生活の中心であるべきだが大志の限界となつてはいけない』のである。実際のところ私にはキャリアが必要だ。単純に私はそういう人間のだ。

Margaret Thatcher, *The Path to Power*, Harper Collins, 1995, p.81 邦訳は奥田。

1950年ごろの保守党の機関紙への投稿

母親が毎日仕事に出かけることによって家族にどのような影響があるのでしょうか．．．（働いていたとしても）子どもに過ごす時間は十分にあります．．．私の経験から言うと、一日の一部分を家族から離れて過ごすことの良さをもっと強調してもよいと思います。子どもたちの面倒を休みなく見ていると、時には少しイライラせずにはられません。

．．．でも、少し離れて過ごす時間があれば、子どもと過ごす一秒一秒が待ち望む喜びとなります
 ．．．後に子どもが学校に行くようになったときに、多くの女性が経験するような人生にポカリと空いた穴もなくなります。

Quoted in M. Pugh *Women and the Women's Movement in Britain* 2nd edition. 2000, Macmillan, p.297. 邦訳は奥田。

3-2. 女性首相のジェンダーと女性性（フェミニニティ）

サッチャー：「鉄の女」 演説

I stand before you tonight in my Red Star chiffon evening gown. (Laughter, Applause), my face **softly** made up and my **fair** hair **gently** waved (Laughter), the Iron Lady of the Western world.

ミッテランフランス元大統領「カリギュラの目とマリリン・モンローの唇」

サッチャー自身も「女性」が利用できるときには利用 → 男性＝圧倒的多数の中での戦略？

メイ：ヒョウ柄のハイヒール（ほかファッション性の強い靴）

→ 本人の意図にかかわらず、「従来」ではないことの象徴



出典：<http://www.theweek.co.uk/politics/62483/tories-auction-theresa-may-shoe-shopping-and-tea-with-boris>

メイ → 女性の政界、経済界への進出

「女性首相」のロールモデルがある・保守党内における女性議員の増加

⇒政治の世界、保守党内で「フェミニスト」を名乗ることがマイナスにならない状況



「男性受けする女性性」とは別の女性性を個性として打ち出すことが可能な時代の女性政治家

（出典 <https://blogs.spectator.co.uk/2018/02/theresa-may-is-what-a-feminist-looks-like/>）

表1 サッチャーとメイ：比較

		
フルネーム	マーガレット・ヒルダ・サッチャー(旧姓: ロバーツ)	テリーザ・メアリ・メイ (旧姓 ブライジア)
生年月日	1925年10月13日	1956年10月1日
生地	リンカンシャ・グランサム	サセックス・イーストボーン (オックスフォードで育つ)
生家(父)の職業	食料雑貨品店店主	英国国教会牧師
生家の家族	父・母・姉	父・母
学歴	公立女子グラマ・スクール → オックスフォード大学・サマヴィル カレッジ(化学専攻)	公立コンプリヘンシンシヴ・スクール → オックスフォード大学・セントヒューズカ レッジ(地理学専攻)
国会議員以前の職業	化学企業の研究員	イングランド銀行・金融サービス会社 ロンドン市議員(1986-1994)
結婚	1951年(26歳)	1980年(24歳)
結婚相手	デニス・サッチャー (1915-2003:化学企業オーナー経営者)	フィリップ・メイ (1957- :金融関連企業勤務)
家族	夫・長男・長女(双子)	夫
初当選	1959年10月(33歳)	1997年5月(40歳)
政党	保守党	保守党
当選後の主な職	教育科学相(1970-1974) 影の環境相(1974-1975) 野党党首(1975-1979)	影の教育雇用相(1999-2001) 保守党幹事長(2002-2003) 内務大臣(2010-20016) 「女性および平等」担当相(2010-2012)
首相就任	1979年5月(53歳)	2016年7月(59歳)
首相退任	1990年11月	
死去	2013年4月(87歳)	

表 2 総選挙時点における女性 MP 数

	保守党	労働党	自由民主党 (自由党)	その他	合計	女性議員比率 (%)
1918	0	0	0	1	1	0.1
1922	1	0	1	0	2	0.3
1923	3	3	2	0	8	1.3
1924	3	1	0	0	4	0.7
1929	3	9	1	1	14	2.3
1931	13	0	1	1	15	2.4
1935	6	1	1	1	9	1.5
1945	1	21	1	1	24	3.8
1950	6	14	0	1	21	3.4
1951	6	11	0	0	17	2.7
1955	10	14	0	0	24	3.8
1959	12	13	0	0	25	4.0
1964	11	18	0	0	29	4.6
1966	7	19	0	0	26	4.1
1970	15	10	0	1	26	4.1
1974(Feb)	9	13	0	1	23	3.6
1974(Oct)	7	18	0	2	27	4.3
1979	8	11	0	0	19	3.0
1983	13	10	0	0	23	3.5
1987	17	21	2	1	41	6.3
1992	20	37	2	1	60	9.2
1997	13	101	3	3	120	18.2
2001	14	95	5	4	118	17.9
2005	17	98	10	3	128	19.8
2010	49	81	7	6	143	22.0
2015	68	99	0	24	191	29.4
2017	67	119	4	18	208	32.0

(資料 : Richard Kelly and Isobel White, All-Women Shortlists, House of Commons Briefing Paper, No. 5057, 2016,

<http://researchbriefings.parliament.uk/ResearchBriefing/Summary/SN0505> よりダウンロード :

BBC Election 2017: Record number of female MPs, 10 June 2017

<http://www.bbc.com/news/election-2017-40192060>)

表3 イギリス女性と政治年譜

- 1792 メアリ・ウルストンクラフト、『女性の権利の擁護』出版
女性の参政権運動 → 19世紀初頭から意識される
c.1938-48 チャーチスト運動
人民憲章起草段階 → 女性参政権を加える議論が提起
女性の運動への参加 → 請願書への署名の8%程度が女性
- 1851 ハリエット・テイラー・ミル匿名で「女性参政権」発表
- 1865 J.S. ミル 議会における第2次選挙法改正案に女性参政権の修正案提出,
否決
- 1867 女性参政権全国協議会創設
1867年以降 議会に女性参政権法案が上程 → 否決
- 1869 女性納税者, 市町村議会への選挙権獲得. 救貧委員への立候補も可能に
- 1870 女性納税者 教育委員への選挙権・被選挙権獲得
- 1883 第3次選挙法改正で女性参政権否決
1880年代以降参政権運動の一時的停滞
- 1888 女性納税者, 州・バラ議会の選挙権獲得 (立候補は1907年から)
- 1897 女性参政権協会全国同盟結成
- 1903 女性社会政治同盟創設
- 1905 女性社会政治同盟, 過激な参政権運動を開始
- 1914-1918 第1次世界大戦
- 1918 戸主あるいは戸主の妻である30歳以上の女性に選挙権,
女性議員を認める法律が成立
12月 総選挙 17名の女性が立候補
→ 当選者1名: コンスタンス・マルキエヴィッチ: シンフェイン (議席総数 707)
- 1919 補選で, ナンシー・アストー (保守党) 当選 (登院した最初の女性議員)
- 1920 オックスフォード大学, 女性に学位を認める
- 1928 男女平等参政権
- 1929 マーガレット・ボンドフィールド(労働党) 最初の女性閣僚に (労働大臣)
- 1941 女性の戦時徴用開始
- 1948 ケンブリッジ大学, 女性に学位を認める
- 1954 公務員・教員の男女同一賃金
- 1958 女性貴族議員誕生
- 1959 サッチャー・初当選
- 1969 成人年齢(参政権獲得年齢)を21歳から18歳に引き下げる

- 1970 同一賃金法制定（性別による賃金差を違法に．完全実施は 1975 年）
オックスフォードで第 1 回ウィメンズ・リパレーション会議開催
- 1975 性差別禁止法制定
雇用保護法（女性被用者の母性保護）
サッチャー・保守党党首に就任
- 1978 妊娠を理由とした解雇を禁止．産休 6 週間を権利に（給与 9 割支給）
- 1979 **サッチャー・首相に就任**
- 1983 同一賃金改正法(同一価値労働・同一賃金の明文化)
- 1986 性差別禁止法改正（法の適応範囲を小企業まで拡大）
- 1990 **サッチャー・首相を辞任**
- 1992 ベティ・ブースロイド(労働党)庶民院議長に
- 1993 労働党、「女性ショートリスト（All-women shortlists ;AWS）」作成
→ 庶民院議員選出にあたって女性を優遇
- 1994 英国国教会 女性聖職者を任命
- 1995 AWS,性差別禁止法違反として訴えられる
→ 1996 違法との判決
- 1997 120 名の女性議員誕生
メイ・初当選
- 2002 性差別禁止法改正 2015 年までの時限措置として，庶民院，
ヨーロッパ議会，スコットランド議会，ウェールズ議会，
地方議会において AWS を作成することを政党に認める
- 2010 性差別禁止法改正
AWS の作成を 2030 年まで延長
- 2016 **メイ・首相就任**